

1. 研修実践（研修カリキュラム修了により専門単位 20 単位を取得）

1) 専門基礎研修カリキュラム（摂食嚥下）

(1) カリキュラム内容：専門作業療法士（摂食嚥下）の専門基礎研修は、基礎Ⅰ～Ⅳで構成されています。各研修の目的、項目、コマ数を表3に示します。

表3 専門作業療法士（摂食嚥下）：専門基礎研修カリキュラム

	目的	研修項目	コマ数	コマ数合計
専門基礎Ⅰ	正常な摂食嚥下の機構および機構の破綻による障害について専門・生理・解剖・運動学の観点より理解する。	食べるって何？（食や食環境に関する文化や歴史、食べる障害が人に与える影響）	1	7
		日本における摂食嚥下障害と作業療法の変遷（学会報告や診療報酬などに見る）	1	
		摂食嚥下機構とその障害（生理・解剖・運動学の基礎を踏まえた臨床症状について）	2	
		摂食嚥下機構の発達とその障害（生理・解剖・運動学の基礎を踏まえた臨床症状について）	2	
		作業として考える食事支援	1	
専門基礎Ⅱ	摂食嚥下障害に対するチーム医療としての各職種の役割を理解する。	摂食嚥下障害と医師（摂食嚥下障害の診断と検査（成人・老人、小児）、チーム医療、誤嚥性肺炎、リスク管理、栄養摂取の代替え法）、吸引に関する知識等	1	7
		摂食嚥下障害と看護師（吸引に関する知識、薬剤の影響、ベッドサイドのスクリーニング、食事介助技術）	1	
		摂食嚥下障害と理学療法士（呼吸機能について、COPD、排痰等、PTの役割）	1	
		摂食嚥下障害と言語聴覚士（STが行う摂食嚥下訓練の紹介、OTとの連携）	1	
		摂食嚥下障害と歯科（口腔内の評価、口腔ケア、OTとの連携）	1	
		摂食嚥下障害と管理栄養士（栄養管理、食物形態、調理方法、増粘剤）	1	
		摂食嚥下障害と作業療法士	1	
専門基礎Ⅲ	摂食嚥下障害に対するOTの基本的役割と、各種疾患別のOTの基本的役割を理解する。	中枢・末梢神経疾患に伴う摂食嚥下障害（脳血管疾患・パーキンソン病・反回神経麻痺など）	1	8
		変性・神経-筋疾患に伴う摂食嚥下障害（パーキンソン病、ALS、MSなど）	1	
		老年期障害に伴う摂食嚥下障害（認知症、廃用症候群）	1	
		内科・整形・外科疾患に伴う摂食嚥下障害（脊髄障害、悪性腫瘍、COPDなど）	1	
		精神科病棟における摂食嚥下障害（統合失調症、重度認知症、躁鬱、廃用症候群など）	1	
		発達期の摂食嚥下障害（肢体不自由・重複障害等）	1	
		発達期の摂食嚥下障害（発達障害・知的障害等）	1	
		摂食嚥下障害に対する在宅での支援	1	
		摂食嚥下障害に対する在宅での支援	1	
専門基礎Ⅳ	摂食嚥下障害に対する基本的な評価から治療までの一連のプロセスと、さらにOTに不可欠な評価と治療について理解する。	摂食嚥下障害に対する評価（小児）	2	8
		摂食嚥下障害に対する評価（成人・高齢者）	2	
		摂食嚥下障害に対する治療（小児：治療計画を含めて機能訓練と摂食訓練のポイントを説明、福祉用具や補助具の適応と選択、食事介助指導も含む）	2	
		摂食嚥下障害に対する治療（成人・高齢者：治療計画を含めて機能訓練と摂食訓練のポイントを説明、福祉用具や補助具の適応と選択、食事介助指導も含む）	2	

- (2) **受講方法**：上記、研修カリキュラム（表 3）をもとに開催される基礎研修Ⅰ～Ⅳを受講します。基礎Ⅰ～Ⅳの研修は、基礎Ⅰ7コマ、基礎Ⅱ7コマ、基礎Ⅲ8コマ、基礎Ⅳ8コマであり、いずれも2日間、4回のスケジュールで開催されます。研修時間割の例は図 6 のようになっています。
- 研修の開催時期、会場、講師等の詳細は、「教育部研修会受講生募集案内」や協会ホームページの専門作業療法士取得研修案内にて広報されます。研修会参加申し込みを確認し、必要な手続きを行ってください。

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	16:00
1日目	90分	90分	昼食	90分	90分	
2日目	90分	90分	昼食	90分	90分	

図 6 基礎研修Ⅲの時間割の例

- (3) **受講記録**：協会が主催する専門作業療法士研修においては、受講後、自動的に会員ポータルサイトの受講履歴に記録されます。受講後に履歴が更新されていることを確認してください。
- (4) **専門基礎研修の一部免除について**：日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士は、専門基礎ⅠとⅡを免除します（表 3）。

2) 専門応用研修カリキュラム（摂食嚥下）

- (1) **受講資格**：専門応用研修の受講資格として、専門基礎研修カリキュラムのすべてを修了していること。
- (2) **カリキュラム内容**：専門応用研修カリキュラムの各研修の目的、項目、コマ数を表 4 に示します。

表 4 専門作業療法士（摂食嚥下）：専門応用研修カリキュラム

	目的	研修項目	コマ数
専門応用	基礎知識をふまえて技術の習得を目的とし、高い実践能力を身につける。	評価演習(成人・高齢者・小児を想定して、受講者同士で行う。観察評価は症例の動画を見て行う)	3
		治療演習(成人・高齢者・小児を想定して、受講者同士で行う。補助具作成・食物形態の加工・吸引モデルを使った吸引・食事姿勢の設定等の実技演習を実施する)	4
		成人・高齢者の評価治療演習	7
		小児の評価治療演習	7
		成人・高齢者の摂食嚥下障害に対する事例検討 1	7
		小児の摂食嚥下障害に対する事例検討 1	7

- (3) **受講方法**：上記、研修カリキュラム（表 4）をもとに開催される専門応用研修を受講する。

研修の開催時期、会場、講師等の詳細は、「教育部研修会受講生募集案内」や協会ホームページの専門作業療法士取得研修案内にて広報されます

す。研修会参加申し込みを確認し、必要な手続きを行ってください。手続きには、受講資格の確認が含まれます。受講資格証明書（様式：専 OT-6-1）に必要事項を記入し、研修会への申し込みの際に添付して下さい。

なお、大学院などでの学習と同時進行をすることもあるため、専門応用の研修を受けながら専門研究・開発の研修を同時に行うこともできます。

- (4) **受講記録**：専門基礎研修の受講と同様に記録をしてください。
- (5) **専門応用研修の修了**：専門応用研修のカリキュラムをすべて受講することにより、専門応用研修を修了とします。

3) 専門研究・開発カリキュラム（摂食嚥下）

- (1) **受講資格**：専門研究・開発の受講については、表 5 の方法から選択し、順次進めてください。
- (2) **カリキュラム内容**：専門研究開発のカリキュラムを表 5 に示します。目的、研修項目、実施形態等を示します。

表 5 専門作業療法士（摂食嚥下）：専門研究・開発カリキュラム

	目的	研修項目	実施形態
専門研究・開発	高度かつ専門的な実践能力に基づき摂食嚥下の作業療法に関する研究・開発が実施でき、指導法、評価法、効果判定などができる。	研究方法論（摂食嚥下に関する基礎・臨床の研究開発の実践）	①協会が指定する専門研究・開発 e-learning で研究倫理や研究方法を学習し、研究・開発をすすめ、摂食嚥下に関する論文を作成する。
		専門分野の指導を受け、研究開発を進める	②大学院にて博士、修士の学位を修得（原則として摂食嚥下に関する論文作成）

- (3) **受講方法**：表 5 の研修項目に掲載された課題を遂行します。表 5 の実施形態のうち以下の 2 種のいずれかを遂行してください。

①協会が指定する専門研究・開発 e-Learning 「ICR-web*」を受講し、より発展した研究・開発を実践していきます。受講方法の詳細は日本作業療法士協会ホームページからユーザー向け操作説明書をダウンロードし、確認してください。受講証明として ICR-web が発行する 2 枚の終了証（有料）が必要となります。

*ICR-web https://www.icrweb.jp/icr_index.php

②大学院において博士、修士の学位を修得することによって専門研究・開発の研修を修了したものとみなします。原則として、摂食嚥下関連論文の作成が条件です。

- (4) **受講記録**：受講方法①については ICR-web が発行する 2 枚の修了証（有料）が必要となります。印刷し保管してください。受講方法②については大学院修了証と、原則として摂食嚥下に関する論文によって審査を行いますので、これらの必要書類を大切に保管してください。必要書類は、専門作業療法士資格認定審査申請時に研修実践の報告書に添えて提出する必要があります。